



教職大学院だより

熊本大学大学院教育学研究科 令和5年9月1日発行

中間報告会～P2 院生より実践の経過報告～

8月28日、教育実践研究中間報告会が、4年ぶりに対面形式で開催されました。

1人あたり20分間という短い時間で、協力校での取組や関連論文や書籍の学び等を報告しました。研究内容に対して意見をもらい、共有することにより、これまでの



熱心な発表が続いた教育実践研究中間発表会

自身の研究を振り返り、刺激を受けるよい機会となりました。1年生にも、今後どのように取り組んでいけばよいか明らかになったようです。2月の発表会に向けて、さらなる取組みが楽しみです。

NITS・熊本大学教職大学院コラボセミナー

7月15日、恒例となった保護者向けセミナー「テクノロジーの善き使い手を育てる～家庭で取り組むデジタル・シティズンシップ教育～」をオンラインで開催しました。国際大学GLOCOMの豊福



家庭と学校の連携を議論したパネルディスカッション

晋平准教授による講演、保護者、学校、専門家の立場の方に登壇いただいたパネルディスカッションにより、情報化が進む今、テクノロジーの善き使い手になるためにはどのような教育が必要か、それぞれの役割についてじっくり考えることができました。今回のセミナーがタブレット端末の効果的な活用につながることを願っています。

P1院生による授業紹介

「21世紀型能力(確かな学力)」を育成するカリキュラム・デザイン

現学習指導要領は、「コンテンツ・ベース」から「コンピテンシー・ベース」へと学力観が変化しています。教師は、知識技能の習得だけでなく、育成すべき資質・能力を意識した指導を行っていくことが求められています。この授業では、学力観の歴史的変遷や教科横断的な視点で、今求められている資質・能力について捉え直しています。また、資質・能力を育成するために、「どの教科と教科を関連づけることが可能か」など具体的なカリキュラム編成について学びを深めています。改めて、子供たちにどんな力をつけたいのか考える機会となり、現場に戻っての実践が楽しみになっています。(P1古江昂志)



P2院生による研究紹介

道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント

各学校で作成されている道徳の年間指導計画。その指導計画が、果たして目の前の子どもたちの実態に即したものとなっているのだろうか、という疑問がありました。子どもたちの姿を見取りながら計画を立て、実践した後は計画を見直し、次に向けて改善していく。このように、年間指導計画を「つくり」「動かす」ことで、子どもたちにとって切実感のある学びとなり、教育の質も高まると考えます。

カリキュラム・マネジメントを進めていくためには、学校全体で目的を共有し、協働しながら取り組んでいくことが欠かせません。そのための効果的な方法について研究を進めています。



(P2宮原大輔)